



／ 学芸員による大人のための水曜講座 ／

葉山美術講座

神奈川県立近代美術館 葉山では、2018 年度から当館の学芸員による「葉山美術講座」を開講します。
今年度は6月、8月、10月、12月、2月の水曜日（各月2回）の予定です。

5名の当館学芸員が近代美術の専門テーマについて、少し上級者向けの奥深い内容をお話しします。

1回のみ参加も可能です。水曜日の午後は、葉山美術講座でアートに浸ってみませんか？

2018 年度 開催概要

日 程 ① 6/6、② 6/27、③ 8/8、④ 8/15、
⑤ 10/3、⑥ 10/17、⑦ 12/12、⑧ 12/19、
⑨ 2/6、⑩ 2/20（すべて水曜日）

回 数 全 10 回（テーマは月替わり、裏面参照）

時 間 午後 2 時－3 時 30 分

定 員 当日先着 70 名

会 場 神奈川県立近代美術館 葉山 講堂

講 師 当館学芸員

対 象 近代美術の作品やその歴史について
理解を深めたい方

※申込不要、参加無料。

※日時や内容は変更となる場合があります。

「葉山美術講座」の開講にあたって

神奈川県立近代美術館長 水沢 勉

当館は、1951年に日本で最初の公立近代美術館として鎌倉に誕生いたしました。2003年には葉山館が開館し、21世紀にその歴史を刻んでいます。長い歳月を美術館活動に費やしてきたその成果は、学芸員たちの学識のなかに蓄積されています。本講座では、その専門性を生かしつつ、最新の研究成果に基づいて近代美術に関する重要なトピックをひもときます。興味深く刺激的な時間になることでしょう。

ぜひともご参加ください。

6/6 水**第1回****木下杢太郎と
〈パンの会〉を
中心に**

きのしたもくたろう
木下杢太郎(1885－1945)は、青年時代に詩人・北原白秋や画家・石井柏亭らと耽美主義的なグループ〈パンの会〉を結成したことで知られています。第1回では、木下の青春時代の詩や絵画といった豊饒な創作活動を紹介します。また木下は、森鷗外を師と仰ぎ、医学の道を歩みながら、文学や美術評論といった創作活動にも励み、近代美術の中で特異な位置を占める植物画〈百花譜〉を生み出しました。第2回では、木下の人生を通して〈百花譜〉が生まれた謎を解き明かします。
講師：橋秀文(主任学芸員)

6/27 水**第2回****木下杢太郎の
〈百花譜〉が
生まれるまで****8/8** 水**第3回****村山知義の
ドイツ(1)**

1922年に留学したベルリンで、ダダや構成主義といった当時の先端的な芸術に触れた村山知義(むらやまともよし1901－1977)。翌年に帰国後、関東大震災を挟んで発展するモダン都市・東京を舞台に美術や演劇など多方面に活躍しました。2012年に葉山館で回顧展「すべての僕が沸騰する村山知義の宇宙」が開催され、今年4－8月のベルリンでの企画展「Hello World」で紹介されるなど、今あらためて注目されている村山知義について、そのドイツ留学の軌跡や、今日の国際的な評価について紹介します。

講師：三本松倫代(主任学芸員)

8/15 水**第4回****村山知義の
ドイツ(2)****10/3** 水**第5回****舞台美術家・
朝倉摂の絵画(1)**

彫刻家・朝倉文夫の長女として生まれた朝倉摂(あさくらせつ1922－2014)は、演出家・蜷川幸雄の作品をはじめ数多くの舞台美術を手がけたことで知られていますが、芸術家としての出発点は日本画の制作にありました。どのような作品を描き、なぜ絵描きをやめたのか、新進の日本画家として活躍していた頃の足跡を追います。さらに、所蔵作品の修復過程で発見された作品を通して、その創作の秘密について明らかにします。
講師：西澤晴美(学芸員)

10/17 水**第6回****舞台美術家・
朝倉摂の絵画(2)****12/12** 水**第7回****古賀春江(1)**

福岡県久留米の寺院の長男として生まれた古賀春江(こが はるえ1895－1933)は、大正から昭和初期のモダニズムの時代に活躍した画家です。生前の古賀と親交のあった小説家・川端康成は、ことあるごとに古賀について語り、その作品を後世に残すため尽力しました。当館が所蔵する古賀の代表作《窓外の化粧》、《サーカスの景》は、川端から寄贈された作品です。画家、また詩人として古賀をいち早く評価した川端康成と古賀春江との交友、そしてこの二人の芸術家に通じる美意識に迫ります。

講師：長門佐季(企画課長)

12/19 水**第8回****古賀春江(2)****2/6** 水**第9回****劉生の父、
岸田吟香(1)**

きしだ ぎんこう
岸田吟香(1833－1905)は、《麗子像》で知られる大正洋画壇の巨匠・岸田劉生(りゅうせい1891－1929)の父です。吟香は岡山に生を受けながら、幕末の世の変動に翻弄されつつ、東京・横浜で日本初となる事業をいくつも興し、さらには多くの文化人を陰ながら支えた傑物でもありました。本講座では、吟香の激動の人生を足早にたどりつつ、同時代の美術家との蜜月を探ります。

講師：高嶋雄一郎(主任学芸員)

2/20 水**第10回****劉生の父、
岸田吟香(2)**